

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 154-01-01

事務事業名	水洗化促進事業			事務の種類	自治事務(義務的なもの)	
				連絡先	内線2371	
担当部署名	下水道総務課			予算科目	会計	下水道事業
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	事業費
	施策	5	上下水道		項	営業費用
	施策の方向	4	下水道事業の推進		目	普及指導費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	公共下水道が整備済みの地区における下水道管(汚水)の未接続の家庭				
	目的 (どうしたいか)	公共下水道への未接続家庭をなくし、地域の水環境の保全に努める。下水道の接続率を上げ、公共下水道の健全経営に寄与する。				
	手段 (事業内容)	下水道供用開始区域の未接続家庭を対象とした戸別訪問等により、下水道接続の啓発活動を行う。				

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 補助交付金 702千円	
当初予算額	事業費	1,595	3,643	3,024	【特定財源】 国庫補助金 348千円	
決算額	事業費	693	702	-		
	特定財源等	0	348	-		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			
指標名	訪問件数	単位	件	
指標の説明	公共下水道の整備区域における未接続の家庭の訪問件数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	1,610	1,300	1,000	
実績	1,375	1,610	-	

【事業費】 補助交付金 702千円
【特定財源】 国庫補助金 348千円

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			
指標名	水洗化率	単位	%	
指標の説明	公共下水道整備区域における接続率			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	88.0	88.5	90.0	
実績	87.9	88.6	-	

≪事業の参考数値等≫

(水洗化率)

H25末:85.7%
H26末:86.1%
H27末:86.4%
H28末:86.9%
H29末:86.7%
H30末:86.9%
R01末:87.1%
R02末:87.5%
R03末:87.9%
R04末:88.6%

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
水洗化の促進は、地域の水環境の保全に大きく寄与し、清潔で快適な市民生活を確保するのに重要であり、100%を目指し今後も継続していく必要がある。経済的な理由により水洗化(接続)工事が困難な家庭に対しては、積極的な相談業務や根気よく対話する必要がある、また町会等、地域での啓発活動を展開する必要がある。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
水洗便所改造助成金拡充を実施するほか、接続を奨励する制度の見直しを検討する。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 156-01-01

事務事業名		下水道施設等管理事務事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
担当部署名		下水道総務課		連絡先		内線2371	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち	予算科目	会計	下水道事業	
	施策	5	上下水道		款	事業費	
	施策の方向	6	下水道施設等の更新		項	営業費用	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	ポンプやゲート等の下水道等の施設					
	目的 (どうしたいか)	下水道施設等の運転管理を確実にし、浸水の予防や水環境の保全に努める。					
	手段 (事業内容)	下水道施設等の運転監視及び保全等の維持管理を行う。雨水ポンプ場1箇所、取水ゲート18箇所、貯留施設3箇所、雨水ポンプ1箇所、汚水中継ポンプ場1箇所、マンホールポンプ33箇所、水位監視カメラ5箇所。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	65,590	72,435	73,650
決算額	事業費	58,974	64,354	-
	特定財源等	1,648	1,648	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】年間施設管理委託料: 45,232,000円

【特定財源】
下水道占用料:1,647,640円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	施設の点検数	単位	回	
指標の説明		年間を通じた点検の総回数		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		1,670	1,670	1,670
実績		1,670	1,670	-

≪事業の参考数値等≫

下水道施設の停止による市民生活への影響件数:0件

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	施設の安定稼働率	単位	%	
指標の説明		安定的に稼働している施設数÷全施設数×100		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		100	100	100
実績		100	100	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
水環境を良好にし快適な市民生活を確保するとともに浸水から生命と財産を守るために必要であり、都市機能を維持するのに必要な事業である。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
建物及び設備の経年による老朽化に伴い、修繕箇所や修繕費用等も増加傾向にある。維持管理計画等に基づき、安定的な施設管理を行う。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 156-01-02

事務事業名		下水道施設等改修事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
担当部署名		下水道総務課		連絡先		内線2371	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち	予算科目	会計	下水道事業	
	施策	5	上下水道		款	資本的支出	
	施策の方向	6	下水道施設等の更新		項	建設改良費	
					目	管渠改良費	
事業の概要	対象(誰を・何を)	下水道施設					
	目的(どうしたいか)	下水道施設の老朽化による機能停止や事故発生を未然に防止し、下水道サービスの安定化を図る。					
	手段(事業内容)	点検・調査を実施し、「下水道長寿化計画」や「下水道ストックマネジメント」に基づく改築・修繕事業を実施する。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 委託料 58,698千円 工事費 134,655千円 補償費 0千円 【特定財源】 国交付金 35,823千円 地方債 137,900千円	
当初予算額	事業費	458,413	361,439	389,068		
決算額	事業費	267,436	193,353	-		
	特定財源等	262,927	185,179	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	改築した下水道施設の延長	単位	m	
指標の説明	1年間に改築した下水道施設の延長			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		1,277	755	481
実績		1,176	755	-

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	改築した下水道施設の総延長	単位	m	
指標の説明	改築した下水道施設の総延長			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		7,063	7,818	8,947
実績		7,711	8,466	-

≪事業の参考数値等≫
 R04 工事延長:755m
 R05 工事発注(予定)延長:481m

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
現在、下水道管渠は、耐用年数を超過しているものも含め、総延長は318kmに達している。また供用開始後20~30年経過する雨水、汚水ポンプ場においても、各設備の経年変化に伴う修繕等が増加傾向にある。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
長期的な視点で下水道施設全体の老朽化対策を図るため、ストックマネジメント計画による改築事業を推進していく。